

拡大戦略会議の中で プロジェクトの実績を発表

二月二十四日、角田駅オークプラザを会場に、昨年七月に発足したプロジェクトチームの活動報告が、拡大戦略会議で行われました。

会議には、理事長の佐藤清吉市長をはじめ、小松光一顧問（茨城大農学部講師）、渋谷長生顧問（弘前大農学生命科学部助教）、角田市農林課、JA職員等が出席しました。

会議は、小松顧問の進行により、各チームの代表がこれまで、目的の実現を目指し、活動を行ってきた状況と、実績について発表。渋谷顧問のコメントや戦



▲出席者全員で意見の交換

略委員等、出席した皆さんからの活発な意見の交換が行われました。
各チームの目的や活動は、次の通りです。

◇あぶくま農学校創設プロジェクト

平成十二年十一月十一日、JA総合営農センター特設会場において、開校式が行われ「あぶくま農学校」の全体構想を発表しました。

これは、三つの柱からなっており、一つは、人材育成を図る自立農業塾の開設で、地域農業の担い手を育てる「風の塾」と、



▲昨年の7月11日に行われた発足式

新規参入希望者への支援を行う「土の塾」からなっています。二つ目は、食農学習の里づくりで、地元小学校への総合学習等の支援や、歴史的なつながりの深い東京都目黒区や仙台市等の都市生活者に対して、角田での農業と農村体験を通じた交流により、食と農の学びの里づくりを目指すものです。三つ目は、角田農業や地域全体を紹介するホームページとして「ウエブマガジンあぶくま農学校」の開設と、都市生活者ハイน์ターネットを通してリアルタイムで農業の体験学習を行うバーチャル農学校の開設を目指すものです。

◇トップブランドづくりプロジェクト

一流品のものづくりを目指しながら、地道な活動に取り組みしました。地域全体をデザインし、角田の主体性において物語性をもち、実践する総合過程を角田のトップブランドとして位置付けました。

消費者に生産者の顔が見え、品質を保証し、信頼と価値観が生産物に生じるとき、ブランドが生まれるのではないかと考えました。そうした中で、個人レベルでは各々が品質向上を目指して進めて行くことにしてお

り、三月からは、角田産米を使

った地酒開発への取り組みを始めました。



▲角田産米を使った「かくだの地酒」

◇自立した農場制農業の確立プロジェクト

角田農業を牽引し、集落活性化の原動力となる自立した健全な農業経営体を育成するにはどうあるべきか。との視点から取り組みが行われました。

目的を達成するためには、転作や農地の集積など意欲を喚起する方策から検討すべきである。農場制の確立には農地の集積が不可欠である。担い手グループを育成し、不測の事態を回避する方策も必要である。等の意向を踏まえながら、具体的な展開に向けた取り組みに入りま